

2 pg
116-01
J1046 U.S. PTO
09/956888
09/21/01

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

IN RE APPLICATION OF: Sachiko TAJIMA, et al.

GAU:

SERIAL NO: New Application

EXAMINER:

FILED: Herewith

FOR: HAIR COSMETIC COMPOSITIONS

REQUEST FOR PRIORITY

ASSISTANT COMMISSIONER FOR PATENTS
WASHINGTON, D.C. 20231

SIR:

- ☐ Full benefit of the filing date of U.S. Application Serial Number, filed, is claimed pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §120.
- ☐ Full benefit of the filing date of U.S. Provisional Application Serial Number, filed, is claimed pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §119(e).
- ☒ Applicants claim any right to priority from any earlier filed applications to which they may be entitled pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §119, as noted below.

In the matter of the above-identified application for patent, notice is hereby given that the applicants claim as priority:

<u>COUNTRY</u>	<u>APPLICATION NUMBER</u>	<u>MONTH/DAY/YEAR</u>
JAPAN	2000-286644	SEPTEMBER 21, 2000

Certified copies of the corresponding Convention Application(s)

- ☒ are submitted herewith
- ☐ will be submitted prior to payment of the Final Fee
- ☐ were filed in prior application Serial No. filed
- ☐ were submitted to the International Bureau in PCT Application Number .
Receipt of the certified copies by the International Bureau in a timely manner under PCT Rule 17.1(a) has been acknowledged as evidenced by the attached PCT/IB/304.
- ☐ (A) Application Serial No.(s) were filed in prior application Serial No. filed ; and
(B) Application Serial No.(s)
 - ☐ are submitted herewith
 - ☐ will be submitted prior to payment of the Final Fee

Respectfully Submitted,

OBLON, SPIVAK, McCLELLAND,
MAIER & NEUSTADT, P.C.

FD Vastine

Norman F. Oblon

Registration No. 24,618

Frederick D. Vastine, Ph.D.

Registration No. 27,013



22850

日 本 国 特 許 庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

J1046 U.S. PTO
09/956888
09/21/01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application: 2000年 9月21日

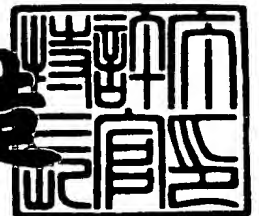
出 願 番 号
Application Number: 特願2000-286644

出 願 人
Applicant(s): 花王株式会社

2001年 3月 9日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2001-3016166

【書類名】 特許願

【整理番号】 P04521209

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 A61K 7/06
A61K 7/13

【発明者】

【住所又は居所】 東京都墨田区文花 2 - 1 - 3 花王株式会社研究所内

【氏名】 太島 佐知子

【発明者】

【住所又は居所】 東京都墨田区文花 2 - 1 - 3 花王株式会社研究所内

【氏名】 渋谷 文夫

【発明者】

【住所又は居所】 東京都墨田区文花 2 - 1 - 3 花王株式会社研究所内

【氏名】 金子 健一

【特許出願人】

【識別番号】 0000000918

【氏名又は名称】 花王株式会社

【代理人】

【識別番号】 100068700

【弁理士】

【氏名又は名称】 有賀 三幸

【選任した代理人】

【識別番号】 100077562

【弁理士】

【氏名又は名称】 高野 登志雄

【選任した代理人】

【識別番号】 100096736

【弁理士】

【氏名又は名称】 中嶋 俊夫

【選任した代理人】

【識別番号】 100101317

【弁理士】

【氏名又は名称】 的場 ひろみ

【選任した代理人】

【識別番号】 100111028

【弁理士】

【氏名又は名称】 山本 博人

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 011752

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 要約書 1

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 毛髪化粧料

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 (A) シス-3-ヘキセノールを含む香料成分、並びに (B) アンモニア、モノエタノールアミン及び芳香族アルコール系浸透促進剤から選ばれる成分を 1 種以上含有する毛髪化粧料。

【請求項 2】 成分 (A) が、シス-3-ヘキセノール(cis-3-Hexenol)を 0.1～50 重量%含むものである請求項 1 記載の毛髪化粧料。

【請求項 3】 成分 (A) が、さらに、シス-3-ヘキセニルアセテートなどのシス-3-ヘキセノール由来のエステル類、トランス-2-ヘキセノール、アルコール C-6、ジメトール、ジヒドロミルセノール、シトロネロール、ゲラニオール、リナロール、マグノール、サンダルマイソールコア、オイゲノール、パラクレゾール、コアボン、ハーバック、1-メントン、 γ -メチルヨノン、リファローム、マンザネート、フルテート、オ-ティ-ビーシーエイチエー、パラクリシルアセテート、1-8シネオール、アネトール、エストラゴール、ローズオキサイド及びリモネンから選ばれる成分を 1 種以上含むものである請求項 1 又は 2 記載の毛髪化粧料。

【請求項 4】 酸化型染毛剤および毛髪用脱色剤である請求項 1～3 のいずれか 1 項記載の毛髪化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明はアンモニア、モノエタノールアミン又は芳香族アルコール系浸透促進剤に由来する不快臭がマスキングされた芳香を有する毛髪化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】

染毛剤にはアンモニアやモノエタノールアミン等のアルカリ剤が配合されており、そのアンモニア臭、アミン臭は施術者及び被施術者双方にとって大きな問題であり、そのマスキング手段の開発が望まれている。また、染毛剤を含む多くの

毛髪化粧料には、毛髪作用成分の浸透を促進させる目的で芳香族アルコール系浸透促進剤が配合されている。この浸透促進剤にも溶剤臭があり、そのマスキング手段も望まれている。

【 0 0 0 3 】

【課題を解決するための手段】

本発明者はアンモニア、モノエタノールアミン又は芳香族アルコールを含有する毛髪化粧料の不快臭のマスキング効果に関し、種々の香料成分について検討したところ、青葉アルコールと称され、青臭さを有することから調合香料上使いこなし難いとされているシス-3-ヘキセノールを、通常使用するよりも過剰に配合すれば、極めて好ましい芳香を有する毛髪化粧料が得られることを見出した。

【 0 0 0 4 】

すなわち、本発明は、(A) シス-3-ヘキセノールを含む香料成分、並びに (B) アンモニア、モノエタノールアミン及び芳香族アルコール系浸透促進剤から選ばれる成分を1種以上含有する毛髪化粧料を提供するものである。

【 0 0 0 5 】

【発明の実施の形態】

本発明に用いられる香料成分(A)は、シス-3-ヘキセノールを含有する。シス-3-ヘキセノールは前記の如く青葉アルコールと称され、青臭さを付与するための香料として知られているが、これにアンモニア臭、アミン臭及び溶剤臭のマスキング効果があることは知られていない。シス-3-ヘキセノールは、成分(A)中に0.1~50重量%(以下、単に%で示す)、特に1~30%含有させるのが、マスキングおよび芳香の効果の点で好ましい。

【 0 0 0 6 】

成分(A)にはシス-3-ヘキセノール以外に、シス-3-ヘキセノールのエステル類、アルコールC-6(Alcohol C-6)、トランス-2-ヘキセノール(trans-2-Hexenol)、ジメトール(2,6-Dimethyl-2-heptanol)、ジヒドロミルセノール(2,6-Dimethyl-7-octen-2-ol)、シトロネロール(3,7-Dimethyl-6-octen-1-ol)、ゲラニオール(3,7-Dimethyl-cis-2,6-octadien-1-ol)、リナロール(3,7-Dimethyl-1,6-octadiene-3-ol)、マグノール(Magnol^R)、サンダルマイソールコア(

2-Methyl-5-(2,2,3-trimethyl-3-cyclopenten-1-yl)-4-penten-2-ol)、オイゲノール (2-Methoxy-4-(1-propenyl)-phenol)、パラクレゾール (p-Cresol)、ハーバック (3,3-Dimethyl-cyclohexyl methyl ketone)、コアボン (Acetyl diisoamyl ene)、 γ -メチルヨノン (5-(2,6,6-Trimethyl-2-cyclohexen-1-yl)-3-methyl-3-buten-2-one)、1-メントン (p-Menthan-3-one)、リファローム (cis-3-Hexenyl methyl carbonate)、マンザネート (Ethyl 2-methyl pentanoate)、フルテート (Ethyl tricyclo[5.2.1.0.^{2,6}]decan-2-yl carboxylate)、オ-ティ-ビシエチエー (o-t-Butylcyclohexyl acetate)、パラクリシルアセテート (p-Cresyl acetate)、1-8シネオール (1,8-Cineol)、アネトール (Anethole)、エストラゴール (Methyl chavicol)、ローズオキサイド (4-Methyl-2-(2-methyl-1-propenyl)-tetrahydropyrate) 及びリモネン (p-Mentha-1,4(8)-diene) から選ばれる成分を 1 種以上含むのが好ましい。さらに、成分 (A) は、希釈剤/溶剤を含んでもよい。希釈剤/溶剤としては、ジプロピレングリコール、トリエチルシトレート、エタノールなどが挙げられる。成分 (A) 全量として、本発明毛髪化粧料中に 0.1~1.0%、特に 0.3~0.8% 含有するのが好ましい芳香を発する点で好ましい。

【0007】

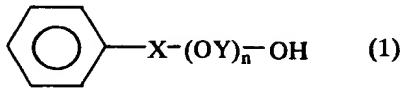
本発明の毛髪化粧料に用いられる成分 (B) のうち、アンモニアは通常酸化型染毛剤および毛髪用脱色剤におけるアルカリ剤として使用されるものであり、毛髪化粧料中に毛髪に適用する状態で (混合後の状態で) 0~3%、特に 0~1% 含有するのが好ましい。また、モノエタノールアミンは、酸化型染毛剤および毛髪用脱色剤におけるアルカリ剤として使用されるものであり、毛髪化粧料中に毛髪に適用する状態で (混合後の状態で) 0~10%、特に 0.1~8% 含有するのが好ましい。また、芳香族アルコール系浸透促進剤は、染毛剤における染料の浸透促進剤、シャンプー/コンディショナーにおける有効成分の浸透促進剤、スタイリング剤における有効成分の浸透促進剤等のように毛髪内部に作用する成分の浸透促進剤として使用されるものであり、毛髪化粧料中に 0~40%、特に 5~25% 含有するのが好ましい。ここで、該毛髪化粧料中において前記 3 成分が全て 0% になることはない。

【 0 0 0 8 】

芳香族アルコール系浸透促進剤としては、例えば一般式 (1)

【 0 0 0 9 】

【化 1】



【 0 0 1 0 】

(式中、 n は 0 又は 1 を示し、 $n = 0$ のとき、 X は炭素数 1 ～ 6 の直鎖又は分岐鎖のアルキレン基、アルケニレン基又はアルキレンオキシ基を示す。ただし、アルキレンオキシ基の酸素原子はベンゼン環と結合する。 $n = 1$ のとき、 X 及び Y はそれぞれ炭素数 1 ～ 6 の直鎖又は分岐鎖のアルキレン基を示す) で表わされる芳香族アルコールが挙げられる。

【 0 0 1 1 】

式 (1) 中、 $n = 0$ のとき、 X としては炭素数 1 ～ 4 の直鎖又は分岐鎖のアルキレン基又はアルキレンオキシ基が好ましく、 $n = 1$ のとき、 X はメチレン基、 Y は炭素数 2 ～ 6 の直鎖アルキレン基が好ましい。具体的には、ベンジルアルコール、フェニルエチルアルコール、フェノキシエタノール、フェノキシイソプロパノール、 α -メチルベンジルアルコール、 α , α -ジメチルベンジルアルコール、 α -プロピルベンジルアルコール、2-ベンジルオキシエタノール、3-ベンジルオキシブタノール等が挙げられ、特にベンジルアルコール、2-ベンジルオキシエタノールが好ましい。

【 0 0 1 2 】

本発明の毛髪化粧料は、前記の如くアンモニア臭、アミン臭及び／又は溶剤臭の改善された酸化型染毛剤、毛髪用脱色剤、酸性染料染毛剤、塩基性染料染毛剤等であるが、このうち酸化型染毛剤が特に好ましい。酸化型染毛剤の場合には酸化染料中間体、例えば顕色物質及びカップリング剤が配合される。これらのうち顕色物質としては p -フェニレンジアミン類、2, 5-ジアミノピリジン類、 p

ーアミノフェノール類、o-アミノフェノール類、o-フェニレンジアミン類、4, 5アミノピラゾール類等が挙げられる。カップリング剤としては、種々のメタフェニレンジアミン類、メタアミノフェノール類、メタヒドロキシベンゼン類、ヒドロキシインドール類、ナフトール類、フェノール類等が挙げられる。さらに、直接染料等を配合することもできる。

【0013】

本発明の毛髪化粧料において、酸化染料中間体を配合した場合、空気中の酸素または酵素等によっても酸化カップリングを生起し、毛髪等を染色するが、化学的酸化剤を添加することにより酸化カップリングを生起させるのがより好ましい。化学的酸化剤としては、過酸化水素；過酸化水素水（例えば35%）や過酸化尿素、アルカリ金属臭酸塩、アルカリ金属過酸塩（過臭酸塩、過硫酸塩、過ホウ酸塩）等が挙げられ、特に過酸化水素が好ましい。

【0014】

本発明の毛髪化粧料中には、粘度・ゲル強度調整剤、油脂類、ロウ類、炭化水素類、多価アルコール類、アミド類、シリコーン誘導体、カチオン性界面活性剤、アニオン性界面活性剤、両性界面活性剤、非イオン性界面活性剤、非イオン性高分子、カチオン性高分子、アニオン性高分子、両性高分子、蛋白誘導体やアミノ酸類、防腐剤、キレート剤、安定化剤、酸化防止剤、植物抽出物、生薬抽出物、ビタミン類、色素、香料、顔料、紫外線吸収剤等を配合できる。

本発明の毛髪化粧料は、例えば透明液状、乳液状、クリーム状、ゲル状、ペースト状、ムース状等とすることができる。

なお、本発明の毛髪化粧料のpHとしては、酸化型染毛剤の場合、8～12、特に9～11の範囲が好ましい。

【0015】

【実施例】

実施例1

下記に示すヘアカラークリーム、ヘアカラー液状及びヘアマニキュアの各処方中の香料として、後記香料処方（A）又は香料処方（B）を配合し、その臭いを専門パネル5人により、5段階評価で官能評価を行った。その結果を評点の平均

点として表 1 に示す。

1) ヘアカラークリーム処方 (1 剤)	(%)
アンモニア水 (2 8 %)	1.0
重炭酸アンモニア	1.3
硫酸第 1 鉄	20ppm
エチレンジアミン四酢酸四ナトリウム	0.2
モノエタノールアミン	3.0
塩酸モノエタノールアミン液 (60%)	1.2
炭酸カリウム	2.0
トルエン-2,5-ジアミン	1.5
レゾルシン	0.6
メタアミノフェノール	0.3
オレイン酸	10.0
オレイン酸ジエタノールアミド	8.0
ポリオキシエチレン(20)オクチルドデシルエーテル	10.0
エタノール	15.0
プロピレングリコール	10.0
亜硫酸ナトリウム	0.5
アスコルビン酸	0.5
香料	0.5
炭酸水素カリウム	pHを11.0に調整する量
水	バランス

【 0 0 1 6 】

2) ヘアカラー液状処方 (2 剤)	(%)
モノエタノールアミン	6.0
アンモニア水 (2 8 %)	1.0
2-ベンジルオキシエタノール	15.0
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	1.0
オレイルアルコール	4.0

ポリオキシエチレン (20) オレイルエーテル	25.0
パラアミノフェノール	1.0
メタアミノフェノール	0.3
トルエン-2, 5-ジアミン	0.7
レゾルシン	0.4
オルトアミノフェノール	0.1
塩酸 2, 4-ジアミノフェノキシエタノール	0.2
香料	0.5
水	バランス

【0017】

* ヘアカラー用 2 剤	(%)
35%過酸化水素	15.0
セタノール	2.5
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	1.0
磷酸	適量
水	バランス

【0018】

3) ヘアマニキュア処方	(%)
エタノール	10.0
1,3-ブチレングリコール	10.0
ベンジルアルコール	5.0
クエン酸	5.0
イソステアリルペンタエリスリルグリセリルエーテル	0.1
ポリエーテル変性シリコーン	0.5
キタンサンガム	1.5
黒色 401 号	0.03
橙色 205 号	0.06
香料	0.5
水	バランス

【0019】

香料成分 (A)	(%)
シス-3-ヘキセノール	20
サンダルマイソールコア	5
γ -メチルヨノン	5
リナロール	10
オイゲノール	10
エストラゴール	2
フルテート	5
リモネン	10
ヘキシルサリシレート	5
フローラルベース	20
フルーツベース	5
ジプロピレングリコール	3
合計	100

香料処方 (B)	(%)
ヘキシルサリシレート	5
フローラルベース	20
フルーツベース	5
シトラール	5
ヘキシルシンナミックアルデハイド	20
リラール	10
リリアール	10
ヘリオナール	5
メチルノニルアセトアルデハイド	5
ベンジルサリシレート	5
ジプロピレングリコール	5
合計	100

【0020】

【表 1】

	実施例 香料成分 (A)	比較例 香料成分 (B)
1) ヘアカラークリーム処方	4.8	2.4
2) ヘアカラー液状処方	4.6	2.2
3) ヘアマニキュア処方	4.4	2.0

【0 0 2 1】

- 5 : 好ましい芳香を有する
- 4 : 刺激臭がない
- 3 : アンモニア臭/溶剤臭がわかる
- 2 : アンモニア臭/溶剤臭の刺激が強い
- 1 : アンモニア臭/溶剤臭の刺激が非常に強い

【0 0 2 2】

表 1 より、シス-3-ヘキセノールを含む香料成分を配合すると、アンモニア臭が顕著にマスキングされ、好ましい芳香が得られることがわかる。

【0 0 2 3】

【発明の効果】

アンモニア臭、アミン臭、溶剤臭がマスキングされ芳香を有し、かつ安定性も良好な毛髪化粧料が提供される。

【書類名】 要約書

【要約】

【解決手段】 (A) シス-3-ヘキセノールを含む香料成分、並びに (B) アンモニア、モノエタノールアミン及び芳香族アルコール系浸透促進剤から選ばれる成分を含有する毛髪化粧料。

【効果】 アンモニア臭、アミン臭、溶剤臭がマスキングされ芳香を有し、かつ安定性も良好な毛髪化粧料が提供される。

【選択図】 なし

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2000-286644
受付番号	50001216029
書類名	特許願
担当官	第五担当上席 0094
作成日	平成12年 9月22日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成12年 9月21日
-------	-------------

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000000918]

1. 変更年月日	1990年 8月24日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号
氏 名	花王株式会社